

R6 年度 後期学校評価アンケート結果

平素は、本校教育にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。さて、1月に実施いたしました、後期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。前期に引き続き、「児童」「保護者・地域」「教職員」を対象にアンケートを実施しました。今回の学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい嵯峨野教育の在り方を探り、今後に生かしていきたいと考えております。このアンケート結果は、特徴的な項目をピックアップして分析したものを掲載しております。

【生活面】児童・保護者 実現度ベスト5

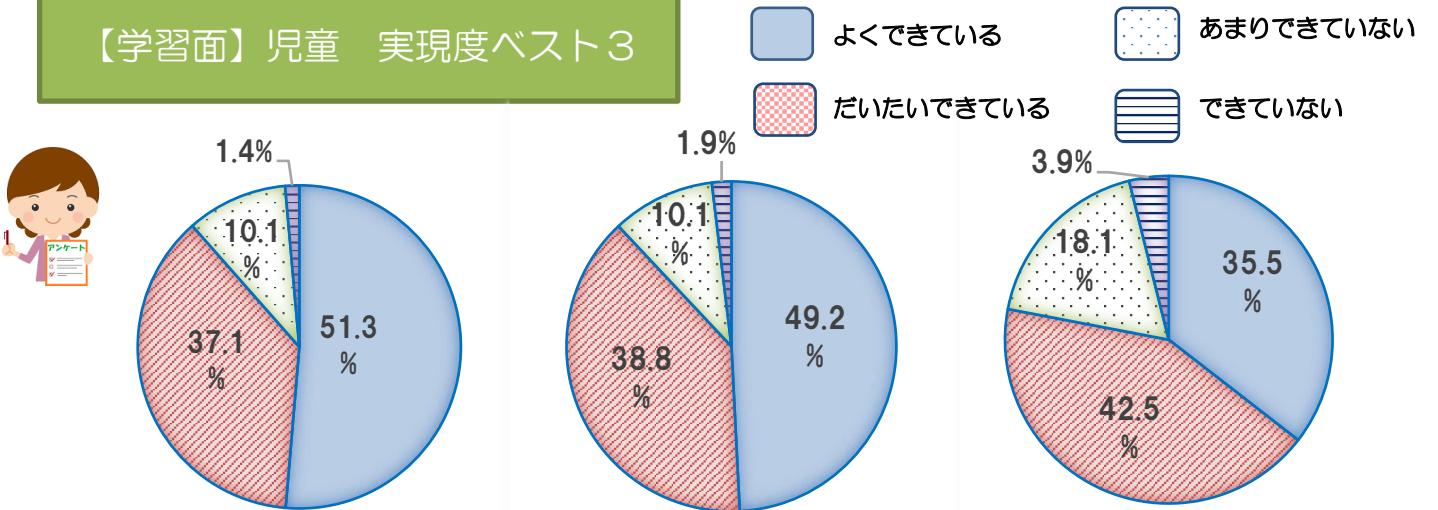
児童		後期	前期
1位 (保3位)	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校したり、地域で過ごしたりしていますか。	96. 9%	96. 1%
2位 (保2位)	友達に親切にしていますか。	96. 5%	96. 3%
3位 (保4位)	相手の気持ちを考えて「ありがとう」や「ごめんなさい」など、自分の気持ちを伝えられていますか。	94. 4%	94. 3%
4位 (保1位)	やってはいけないことは、ないようにしていますか。	93. 8%	94. 9%
5位 (保7位)	「いじめをしない」「いじめを見のがさない」ができますか。	92. 8%	94. 7%

安全に関する項目は、前期・後期とも1位でした。
登下校中の見守り・安全指導、ありがとうございます!!

【児童・保護者の実現度を比較して】

- 児童と保護者のアンケートを集計し、実現度の高い順に5つの項目を比較してみると、前期に引き続きほとんど同じ項目において「よくできている」か「だいたいできている」のような肯定的な回答が多いことがわかりました。また、前期と比較しても90%以上の肯定的な実現度をキープしています。このことから、お家での継続的な働きかけが、子どもたちの善い行いに繋がっていると考えられます。引き続き、家庭と学校が同じ思いで子どもたちを育てていくことが大切だと感じました。
- 今回挙げている項目以外で、保護者と児童の実現度の差が10%程度離れているものが2項目ありました。1つ目は、「給食・食育」に関する項目で保護者は家庭内での食育実現度が79.4%に対し、児童は87.5%が「好き嫌いせず給食を食べることができている」と答えています。ご家庭では甘えてしまうことも、「友達と一緒になら、苦手なことにも挑戦できる。」というような集団生活の良さが感じられます。学校では、給食時間に毎日献立紹介を行い、食べ物クイズなどを交えながら、楽しく食育を進めています。また、「もぐもぐタイム」と称して、よく噛んで食べる時間を確保する等、体に合った量を食べる為の工夫もしています。ご家庭でも一緒にいろいろな食べ物に親しんでほしいと思います。2つ目は、「整理・整頓について」に関する項目で、保護者の実現度が65.2%に対し児童は86.6%と大きく上回っています。この結果から、保護者が言わなくても児童が実施できていることが考えられます。学校では落とし物も、以前と比べ少なくなっています。引き続き学校でも、「もの」も大切にすることを伝え、自分の「もの」だけでなく整理・整頓された環境づくりを進めています。

【学習面】児童 実現度ベスト3



学習のめあてを意識して、自分に合った方法で学習を進めていますか。

友達の思いや考えを聞き、自分の思いや考えを伝えようとしていますか。

学習したことから、さらに疑問や興味をもったことについて考えたり調べたりしていますか。

- 今年度嵯峨野小学校では、「自分に合った学び方を自己選択・決定し、他者と共に主体的に学び続けることができる子どもの育成」を研究主題として取り組んできました。学習の場面では、子どもたちが自分に合った学習方法を選択できる場面を設定し、主体的に学ぶ中で友達の思いや考えを聞きながら自分の考えを深めていくことや、自分の学びを振り返り調整しながら、さらに疑問や興味をもったことについて学びを広げていくことに挑戦してきました。結果からもわかるように、「自分に合った学習方法で学習を進める力」や「友達の思いや考えを受け止め、自分の思いや考えを伝える力」は徐々に身に付いてきています。しかし、「自分の学びを調整する力（自己調整力）」は前の2つの力に比べ、否定的な回答の割合が少し多く授業や自主学習を見ても「難しい」と感じている子どもたちが一定数いるようです。「自己調整力」は、私たち大人の手から離れ社会に出たときに、とても重要な力です。その為に子どもたちは、小学校6年間で段階的に学習の仕方（手段）を享受することが大切です。学校では引き続き、いろいろな学習の仕方を取得できるよう進めています。

学校評価アンケートの分析を終えて



今回のアンケートを通して、どの項目においてもおおむね肯定的な回答であると感じました。しかし、「すぐーるの活用」についてはご意見を頂いた保護者の約30%の方から「すぐーるを連絡帳代わりにしてほしい」や「ほとんどのお便りをすぐーる配信されているが、紙でも欲しい」という意見をいただきました。すぐーるを出欠・遅刻以外の連絡に使用すると大事な連絡を見逃してしまう恐れがあります。また、事前送信も可能になる為、管理も難しくなります。これらの理由から「すぐーるの活用方法」については今まで通りとさせていただきます。尚、紙面配布に関しましても、こちらが必要と判断したのみにさせていただきますのでご了承ください。

学校運営協議会では、今年度から実施している学年担当制について、「良かった部分は継続しつつ、課題やアンケートから挙がってきた意見についてはできる範囲で改善をして、来年度につけてほしい」というご意見をいただきました。また、「子どもたちの安全意識や節電意識、食育などは常日頃から取り組む必要があり、周りの大人が見本を示さなければならない。そのために、今後も地域に住む大人として、子どもたちを支えていきたい」という温かいご意見もいただきました。